



やさしくレター

第2号

Yasashiku Letter

制作・発行 やさしく応援団

E-mail: yasashikunaani@gmail.com TEL: 03-3406-9455 (いせフィルム)

私からあなたへ ~やさしくレター~ vol.2



75才を迎えて今、私は……。

こんにちは！

『やさしくなあに』奈緒ちゃんのお母さんです。

私は、5月12日で75才になりました。私の周りでは友人と集まれば、あっちが痛い、こっちが駄目だ……そんな話ばかりする様になり、冗談じゃなく人生終盤に来たと思わざるをえない今日この頃です。自分は後悔しない人生を送って来たんだろうか……とか、あと数年どう生きるのか……とか少々伏し目がちな自分ですが、最近、あちこちの『やさしくなあに』上映会に行く度に、自分のためにこの映画をしっかりと観るようにしています。

35年の間にどんな事があったのか？ どういう思いで来たのか？ 私は改めて自分と家族をこの目で追いかけています。そして映画が終わると、私が今あるのはこの二人の子どもたちのお陰だ！ と映画が私に伝えてくれます。それを感じて、じわじわと感謝の涙があふれます。

奈緒が与えてくれた“やさしい気持ちで生きる事”、記一が教えてくれた“人は誰しも誰かに支えられて生きている事”。この二つの大切な事、想いをいつの間にか子どもたちから教わった自分が居る事に気がつき、改めて……改めて感謝の気持ちが湧いて来ます！

『やさしくなあに』は、私にとってもそんな映画です。

西村信子



〈第2回〉ハッチャン

「いせ映画の星組、雪組、花組の宮田八郎です」



「奈緒ちゃんと家族の35年の記録」には、沢山のスタッフに力を貸してもらいました。カメラマンだけでも、かなりの数になります。35年前、一番最初に奈緒ちゃん達にカメラを向けてくれたのは、私よりも二回りも年長の大ベテラン、瀬川順一さんでした。そして一番新しくカメラマンとしてスタッフに加わったのはハッチャンこと、宮田八郎。穂高岳山荘の小屋番を三十年続けてきた山男。カメラマンとしても二十年程前から山の映画を撮り続けており、我が「いせ映画」には十年程前から山を降りている季節に、参加してくれていました。

ハッチャンを紹介する時は、いつも「いせ映画の、星組、雪組、花組の宮田八郎です」と宝塚歌劇団のような枕をつけたもんだ。神戸出身の本人も満更でもないようで、真っ黒に日焼けした顔の中の大きな目玉をクリクリ動かして極上の笑いを浮かべていたっけ……。

ハッチャンの撮る、星や、雪や、花は、マジ、本当に美しかった。『やさしくなあに』も含めて私の映画を観た方々の多くが、作品の中で挿入される、自然描写に心を奪われる。その手柄は、メインカメラマンの石倉隆二と同様に、宮田八郎のカメラに抛るところが大きかったのだ。

ハッチャンは独自の「コマ撮り」という手法で、ねぼり強く自然と向き合い、本物の自然を映画の中に息づかせてくれた。

2018年春、ハッチャンは山ではなく海への冒険の旅に出たまま戻って来ない……。ラストカットは私の新作のために撮影した西伊豆の夜空に浮かぶ星だった。宮田八郎、ハッチャン。何処にいるんだよう……。悔しい、悔しすぎる……。

『やさしくなあに』は、奈緒ちゃんに逢いに通い続けた映画のおじさん達の生きた証、記録でもあるのです。

伊勢 真一 (かんとく)

「やさしくなあに」ってなあに？

奈緒ちゃんは、「やさしくなあに」のあとに、「……っていわなくっちゃ」と続けるのです。

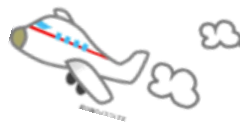
つまり、やさしい気持ちをもって「なあに？」と聞いてあげれば、みんな心に浮かんだ気持ちをしゃべりはじめると、奈緒ちゃんには伝えたいのかなと思うのです。

この「聞く」ということは、簡単なようでいて実にむずかしいことなのです。聖徳太子という人は、10人のひとと同時に対話できたという「ほんまかいな」という伝説があるようですが、10人は無理でも、〇〇さんのお母さんは（お父さんも？）、子どもたちそれぞれの話を聞きながら、ご飯を食べさせたり、着替えさせたり、お風呂に入れたり忙しいなかで、「やさしく聞いてる」でしよう？ 時には、「あーっ、手がかかるなこの子は」なんてこともあってつっけんどんになる（反省！）かもしれない。でも、そうなれば

なったで、子どもたちもしたたかに「ねえ、ねえ、ねえ」とかまってもらおうと手練手管を駆使してきます。こんなふうに、家族の中で攻防戦のできる関係が、「やさしくなあに」なんです（GAN）

『やさしくなあに』海外上映報告

国際ドキュメンタリー映画祭@台湾



この春、『やさしくなあに』奈緒ちゃん家族の35年〜は、海を渡り、台湾・アメリカに上映の旅をした。

台湾では、国際ドキュメンタリー映画祭に招かれ、大好評だった。客席の八割以上が若い人達で埋めつくされておき、上映後には次々に若者達から鋭い質問が続いた。とても嬉しく思い同時に、何故日本では若者達のドキュメンタリーへの関心が薄いかを考えた……。日本の若い衆はドキュメンタリーを「食わず嫌い」ならぬ「観ず嫌い」でいる人が多いのではないだろうか……。

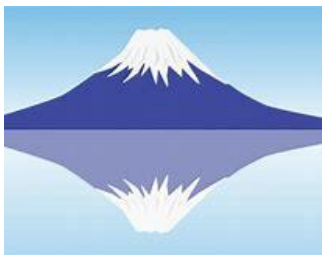
若者達に映画を観に来てもらえようように、出来ることの一つひとつを考え工夫してみようと思う。

「まだまだあきらめない、自分のやって来たことを次の時代に次の世代につなぐまでは」と呟いた同世代の友人、遠藤滋は、脳性マヒが進行し、寝たきり生活を35年に渡って続けながら、今も介護の若者達とかわり「自立生活」に取り組んでいる。

まだまだやり残していることがある……。

私も、まだまだあきらめない。（いせしんいち）

『やさしくなあに』の富士山の話



「奈緒ちゃん」でも『やさしくなあに』でもほんの少ししか出てこないのに印象に残るシーンがあります。そのひとつが富士山のカット。横浜にある奈緒ちゃんの実家の近くで撮影されたそうですが、横浜には今も富士山が見えるスポットがたくさんあります。

もちろん、東京にも富士見町などの地名が各地に残っているように、富士山が見えるスポットはたくさんあります。しかし、高層ビルの増加などによって、実際に富士山を見ることができている場所がだんだん少なくなっている気がしています。

それでも、ふとした時に、街並みの向こうに富士山を見つけて、得したような気分になることもあります。

自分にとって、そんなスポットのひとつがJR中央線の車中です。吉祥寺・荻窪間、そして阿佐ヶ谷・高円寺間で、好天で空気が澄んでいる日に、西の山並みと奥にくっきりと富士山を見ることができると、その優美なシルエットを目にするたび、黙々とスマホをいじっている周囲の人たちに教えてあげたい誘惑に駆られてしまいます。

富士山が信仰の対象だった江戸時代ならいざしらず、今どきを生きている自分が、どうして富士山を見るとハイになってしまふのか。あのフォルムに日本人の琴線に触れるなにかがあるのでしょうか。自分でもよくわかりません。でも、奈緒ちゃんのお母さん、西村信子さんもやっぱり富士山が好き、という話を聞いて、なぜか理屈抜きに納得してしまっただけでした。（いたちゃん）

広がれ！「やさしく応援団」webサイトです。



Web <https://yasashikunaani.jimdo.com>

Twitter @yasashikunaani 「#やさしくなあに」で応援ツイート！

映画『やさしくなあに〜奈緒ちゃんと家族の35年〜』が完成して、もうすぐ一年。これまでに全国で30か所を超える上映会が行われ、今年の5月には台湾の映画祭でも上映されました。少しずつ、でもしっかりと広がっている応援の輪に、あなたも入りませんか？ 「やさしく応援団」webサイトに、映画の感想や奈緒ちゃんへのメッセージ、日常のなかで感じた“やさしさ”エピソードなどをお寄せください。

もうひとつ、携帯電話からも気軽に参加できる場としてTwitterを始めました (@yasashikunaani)。こちらでも感想やメッセージなどなど、応援団の合言葉「#やさしくなあに」のハッシュタグを付けてツイートしてください。あなたの応援、待っています！（ゆう）

映画『やさしくなあと』上映会アンケートより

映画を観たみなさんから寄せられる、アンケートの言葉の力。毎号たくさん紹介していきます。

（2017年）
11月11日（土）12月1日（金）
大阪 シアターセブン

●私には8才年上の次兄がいます。小児マヒで足が不自由です。私は記一さんの様にやさしい弟妹ではなかったで子どもの時から兄に母をとりたれた気がすーっと続いていた。長じて母と和解し、寂しかった私の気持ちもわかってもらえ、うれしく母に謝りました。ぜひ幅広い年齢層の人々に観てもらいたい映画だと思います。（70代・女性・ヘルパー）

11月18日（土）12月8日（金）
名古屋 名演小劇場

●なおちゃんのお母さんに少し自分が重なり泣きました。なんて悲しく、あたたかく、正直な人なのだろうと……。お父さんの弱さも、弟さんの心の病も自分のことのように心にしみ入りました。「こんなに苦しみに生きていかなきゃいけないの」「そうよ」これからの私への生きる道しるべをありがとうございます。（女性）

11月25日（土）12月1日（金）
三重 伊勢進富座

●まず、信子さんが美人。奈緒ちゃんがどこまでもまっすぐで清い。記一さんも心の優しい人なのでしょう。お父さんは「昭和の人」明るいかんどくの目線はいつも温かいです。四歳までしか生きられないと言われた奈緒ちゃんが44歳の誕生日を迎えて自ら「更年期」なんて口にしたので、本当に笑ってしまいました。（女性）

12月2日（土）12月15日（金）
横浜 シネマ・ジャック&ベティ

●ひとは苦しむほど強くなり、ひとは悲しむほどやさしくなり、ひとは苦勞するほど成長します。奈緒ちゃんのやさしさが私たちを変えてくれると強く思いました。（60代・男性）
●奈緒ちゃん泣く事があるのかな？ と思いましたが、どんな時に泣くのかな？ みんなの支えと知らずになっっている奈緒ちゃんの支えは何なんだろか。（40代・女性）
●家族が抱える問題や心配やそんなものは、誰もが同じで誰もが違うというか、そう思いました。観てみようと思っただけは、小5の息子の不登校で、親の対応に悩んでいたからです。（40代・女性・主婦）

●映画のボスターの優しい雰囲気ひかれて観に来ました。私も奈緒ちゃんと同じ44才です。相模原の事件は本当にショックでした。しかし同時にこの世に居場所がないという孤独感が彼をこんな罪へと追い込んだのだらうかとも思いますが、誰もが自分の居場所を感じる世の中にしていかななくてはと思います。（40代・女性・翻訳業）



11月29日（水）
岐阜・可児市文化創造センター
主催/人権啓発センター

●楽しく観られました。お母様の一つひとつのことが主婦である自分、また夫婦も年と共に変化することが素直に表れていた事も良かったです。（60代・女性・主婦）
●とてもいい、心暖まる映画でした。つらい現実かもしれないのに、逆にエネルギーや笑いややさしさをいただきました。映画のタイトルはどういう意味かと思いましたが、なおちゃんにすべてを表す言葉でした。「やさしくなあと」にVIVA!

12月26日（火）一般非公開
東京 エーザイ株式会社
主催/エーザイ株式会社

●「やさしくなあと」という言葉のメッセージを感じると共に、言葉として表現することの重要性を感じました。（50代・男性・会社員）
●奈緒さんはよくマニキュアをしていたり、かわいいうきセサリをしてみてもこちらもうれしくなりました。（女性・会社員）

（2018年）
1月12日（金）
神奈川・横浜市泉公会堂
主催/湘南ドキュメンタリーシネマ/いせフィルム

●相模原の事件で「殺されていい命なんてない」とその時思った私は、奈緒ちゃんやそのご家族との出会いで育てられたと思いました。（60代・女性・無職）
●どの家庭も山あり谷ありですが子どものために愛情をしっかりと日々つなげている母親の気がつたわって来ました。その中心にいる奈緒ちゃん、家族やまわりの方々に生きる力を与えてくれ、まさに主役でした。
●とても美しくすばらしい映画だと思います。桜の花、うさぎのぬいぐるみ、はげゆるの宿の音楽、奈緒ちゃんの美しい声、ひとつひとつが美しかったです。（60代・女性・主婦）

1月13日（土）26日（金）
新宿 スシネマ アンコール上映

●やさしく「なあと」って言わなくちゃ、私は私の家族にそんな接し方したことあるかな？自分の意見が第一で、子どもの意見を聞いているのか？ 自分自身「あなただはどうしたいの？」と問いかける映画でした。（50代・女性・介護職）
●身近に障がいの人がいなくて、もたないようにならなくても、私も偏見をもっていました。障がいに限らず、知らないことによる偏見は、もったいないことで、映画をみられてよかったです。（女性）



●取材対象とこれほど長く寄り添ったドキュメンタリーをはじめて拝見しました。素晴らしい作品、ありがとうございます。（50代・男性・会社員）

1月20日（土）先行上映
2月17日（土）3月2日（金）本上映
静岡 静岡シネ・ギャラリー

●奈緒ちゃんの元気な姿は、自分にとってはなぜか切なくつりました。生きるってなんだろうと、ずっと思っていました。（40代・男性・会社員）
●とても美しい、やさしいドキュメンタリーを見ることでできてうれしかった。感動しました。（30代・女性・飲食業）

1月20日（土）
岡山 岡山県立図書館デジタル情報シアター
主催/精神障害者当事者団体「ゆーとびあ岩田」

●奈緒ちゃんのお母さんの中に、人としてのやさしさがいっぱい詰まっています。障がいの有無に関わらず、「家族」というテーマがあったように思います。
●久しぶりに春巻きをつくらうかなあ……。
●信子夫人の「（私の人生は）一時しのぎのくり返しなのか……」という言葉が印象的でした。障がいだけがテーマではない映画なのは。（60代・男性）

2月3日（土）16日（金）
金沢 シネモンド

●映画『奈緒ちゃん』を観てから『やさしくなあと』を続けてみると、昔は「障害者更生施設」という単語が出てきたり、「障害者を持つ」という「からちゃん」と「障害者がある」という表現に直っていたり、中でも初詣の時「病気が治りますように」という願いが「すこやかに生きていきますように」という願いに変わっていたのが興味深かったです。（40代・男性・団体職員）

2月17日（土）3月2日（金）
京都 京都シネマ

●風の音、波の音、雷の音が効果的で、台詞の無いシーンに想像が膨らみました。
●答えや正解はないですがあふれる愛情、親が子どもにそそぐ強さを感じました。（60代・女性・無職）
●人生いろいろあるけど奈緒ちゃんの映画はいつも心のどこかにきつとあるという感じがしています。これからも撮り続けて下さい。また、観に来ます。（50代・女性・保育士）

3月29日（木）一般非公開
岐阜 内藤記念くすり博物館
主催/エーザイ株式会社川島工場

●お母様のピアノを演奏するシーンがとても素敵に思いました。何か、これまでの人生というか、出来事を思い出しながら、それをかみしめるように演奏し、歌われているように映りました。（30代・男性・会社員）
●フィクション映画でない記録映画がこんなに美しく映って「ぐっ」と来るのは初めてでした。（40代・男性・会社員）
●親に薬を飲ませるシーンやお父さんにお茶を出して風邪ひくよ……とか、ギクシャクしている時に奈緒ちゃんが感じて行動や言葉をかける姿に自分の環境と重ねていろいろ考える事がありました。自分の力になりました。（50代・女性・会社員）

3月3日（土）
山口 下関市生涯学習プラザ 多目的ホール
主催/『やさしくなあと』上映実行委員会

●車中でお父さんが「うちに産まれて良かったよ」とナオちゃんに話していた事、本当にそう思いました。ナオちゃんが選んで産まれて来てくれたんだと思います。（40代・女性・主婦）
●映画を観終わった後、自宅に帰ってから、普段よりも家族に対して優しい（ような気がしました）自分が居ました。（40代・男性・会社員）
●月が象徴的でした。言葉で語れることが少ない分、月の隠喩がお父さんの家庭を雄弁にナレーションしているように。これからはなおちゃんを月が優しく見守っているように。願ってやみません。（女性）



2月24日（土）3月9日（金）
神戸 元町映画館

●感動の場面がたくさんあって見に来て良かったと思えました。本当に真実を伝えていただきに響きました。お母さんの気持ちもよく伝わって来ました。（60代・女性）
●お母さんが「みんなどうやってのり越えていくんだろ」と話す思いに、生きる難しさ、迷い、心の折れそうな気持ちとても印象的でした。これからは作品を作りつづけて下さい。とても「深いテーマ」の作品です。（70代・女性・無職）

3月3日（土）
山口 下関市生涯学習プラザ 多目的ホール
主催/『やさしくなあと』上映実行委員会

●車中でお父さんが「うちに産まれて良かったよ」とナオちゃんに話していた事、本当にそう思いました。ナオちゃんが選んで産まれて来てくれたんだと思います。（40代・女性・主婦）
●映画を観終わった後、自宅に帰ってから、普段よりも家族に対して優しい（ような気がしました）自分が居ました。（40代・男性・会社員）
●月が象徴的でした。言葉で語れることが少ない分、月の隠喩がお父さんの家庭を雄弁にナレーションしているように。これからはなおちゃんを月が優しく見守っているように。願ってやみません。（女性）

3月10日（土）16日（金）
浜松 シネマイーラ

●多くの人が障がいのことを目をそらさずに見守っている世の中に早くなってほしいです。相模原の事件は二度と起こってはいけないと思います。（70代・女性・無職）
3月18日（日）
宮古市 シネマ・テ・アエル（東屋蔵）

●映画を観た後には妙な清々しさがあり不思議な映画だなーと感じました。（40代・女性）
●うまく言えないけど来てよかったです。なおちゃんの家族が近所に住んでいるような気持ちになりました。（50代・女性）

3月29日（木）一般非公開
岐阜 内藤記念くすり博物館
主催/エーザイ株式会社川島工場

●お母様のピアノを演奏するシーンがとても素敵に思いました。何か、これまでの人生というか、出来事を思い出しながら、それをかみしめるように演奏し、歌われているように映りました。（30代・男性・会社員）
●フィクション映画でない記録映画がこんなに美しく映って「ぐっ」と来るのは初めてでした。（40代・男性・会社員）
●親に薬を飲ませるシーンやお父さんにお茶を出して風邪ひくよ……とか、ギクシャクしている時に奈緒ちゃんが感じて行動や言葉をかける姿に自分の環境と重ねていろいろ考える事がありました。自分の力になりました。（50代・女性・会社員）

3月3日（土）
山口 下関市生涯学習プラザ 多目的ホール
主催/『やさしくなあと』上映実行委員会

●車中でお父さんが「うちに産まれて良かったよ」とナオちゃんに話していた事、本当にそう思いました。ナオちゃんが選んで産まれて来てくれたんだと思います。（40代・女性・主婦）
●映画を観終わった後、自宅に帰ってから、普段よりも家族に対して優しい（ような気がしました）自分が居ました。（40代・男性・会社員）
●月が象徴的でした。言葉で語れることが少ない分、月の隠喩がお父さんの家庭を雄弁にナレーションしているように。これからはなおちゃんを月が優しく見守っているように。願ってやみません。（女性）

3月10日（土）16日（金）
浜松 シネマイーラ

●多くの人が障がいのことを目をそらさずに見守っている世の中に早くなってほしいです。相模原の事件は二度と起こってはいけないと思います。（70代・女性・無職）
3月18日（日）
宮古市 シネマ・テ・アエル（東屋蔵）

3月30日（金）、31日（土）
広島 井原会館・障害者支援施設白木の郷
主催/夢の広場ようこそ

●奈緒ちゃんは愛情たっぷり育てられて幸せだと思えました。天真らんまんですが、彼女なりに悩みもあり、うさぎのぬいぐるみを心のよりにどころにしているのかなあと思いました。（50代・女性・会社員）
●「やさしさ」とは特別なことをすることでなく一人の人格のある人間として普通に自然に接することだと改めて感じています。（70代・男性・無職）
●初めてドキュメンタリー映画を観ました。良いところばかりでなく、つらいところ、カッコ悪いところ、全てを映し、考えさせられること多いひとときでした。（40代・男性・会社員）
●奈緒さんは、おもしろい病気がかかっているのに、いつも、元気で過ごしているの、すごい、と思いました。なので、わたしも、奈緒さんを見習って、もっと、すなおで、しっかりした人になりたいです。（小3・女性）

7月29日（日）神奈川連続上映会vol.7

●奈緒さんは、日々発作が起きる自分からなれないのに楽しく生きていてとても強い人なんだと思いました。そして、周囲の人に支えられているのだと思いました。（小6・男性）

7月29日（日）神奈川連続上映会vol.7

●「押し戻す」力がキーワード
押し付けがましくなく、淡々と日常を映し出しながら、いつしか人と人の関わりを考えるような伊勢監督の映画の世界が「なんかええなあ」と何度か自主上映をやってきました。ただ、寄る年波で、自主上映会を開くエネルギーが……、時間が……と足踏みしてしまいましたが、心が動きました。『やさしくなあと』を観て、「我が家も同じや」と。お母ちゃんの、この人と長年連れ添ってきたけど……お父ちゃんの、家族のためにがんばってきたつもりでいたけど何だかぎくしゃく……弟君の人生での挫折や悩み。
「あるある」です。もめこの真ん中で「やさしくなあと」って言うって「らん」と言ってくれる奈緒ちゃんはいないけど。その周りで、なぜだか観ている方も一緒に笑ってしまう。深刻な問題だと思っただけで、我が家のこともちよつとずらして見ると笑える。
大きく心は動きました。
決定的に心が動いたのは、伊勢監督の「押し戻す」という言葉です。「やまゆり園」の事件があったとき、「障害者なんていらんない」という植松被告の言葉に賛同する一部の声もありました。「植松被告の言葉をそれぞれの人がどう押し戻すかが大切」と監督は話していました。



3月24日（土）
松本 松本市中央公民館（ミウイング）
主催/コムハウス運動を支援する市民の会

●障がいのある人のことを知ってもらおうということがテーマの一つであるのかもしれないが、これは人が生きることでテーマなのだと感じました。元気づけて頂きました。
●できるかぎりシンプルに作り上げられた作品で伝わるものが強かった。後からジワジワと見る人のそれぞれのとらえ方によって生きてくる映画です。
●「やさしくなあと」という言葉は今の社会へのメッセージに思いました。素敵な言葉と映画に出会うことができました。ありがとうございます。

4月1日（日）、2日（月）
第32回高崎映画祭
主催/高崎映画祭委員会

●お母さんの体調はいかがでしたか。一緒に死のうと思ったことがある、身につまされます。なおちゃんとご家族がその先をすつと元気で笑顔でいらつやいます様に祈りしてあります。
●兄に知的障がいがあるので記一さんの立場です。記一さんの悩みにはあまりふれていませんでしたが悩みが読みとれました。（40代・女性・パート）

7月29日（日）神奈川連続上映会vol.7

●事件は私が住む相模原で起きました。ちよど2年が経ちます。上映会をともに開いてくれる相模女子大の狩野ゼミの授業の中でスタッフとして参加してくる人たちが、やまゆり園のこと、上映会への思いを分かち合いました。「押し戻す」力に少しでもなればと、キーワードになりました。
アツ、富士山を見に行きたくなる、今夜のおかずは春巻き、も観た人の「あるある」かも。 児玉真由美

2018年7月29日（日）神奈川連続上映会vol.7
神奈川 相模女子大学マーガレットホール（4Fガーデンホール）
1回目：10時より ※上映後、伊勢真一監督のトークあり
2回目：13時より ※上映後、狩野晴子さん（相模女子大学准教授）と伊勢真一監督のトークあり
〈当日券〉1,500円 〈前売券〉1,200円（予約可）
〈障がい者、シニア、学生〉1,000円
※学生は高校生以上、中学生以下無料
主催：『やさしくなあと』相模原上映実行委員会
問合せ：090-1557-3838 実行委員会 コダマ
※保育と親子席あり
申し込み：080-5093-2229 タキモト

《編集後記》
ようやく2号ができあがりました！今回も、羽賀涼子さんがイラストで参加してくださいました。「ハッチャンの笑顔しか描けなくて……」と、きらっキラのハッチャンの登場となりました。ウェブサイトの別のカットを掲載しますのでそちらもご覧ください。